

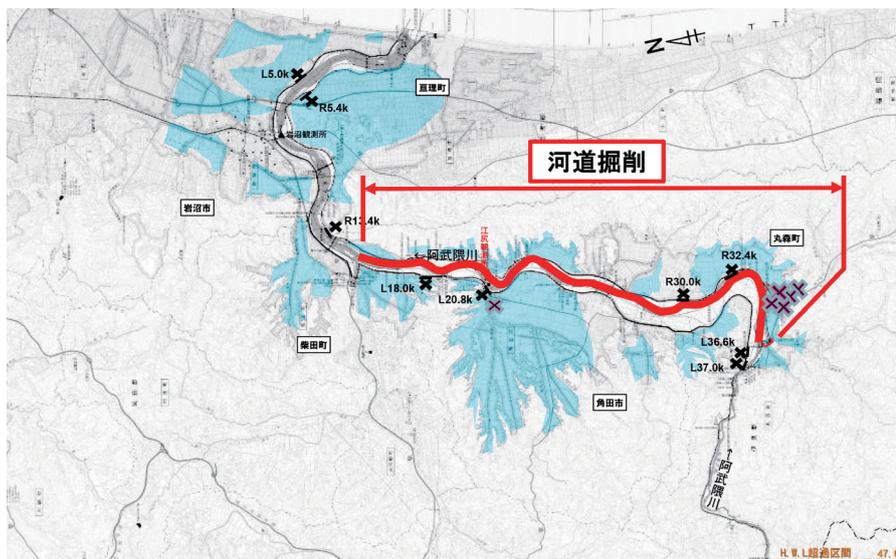
## 阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

—— 本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が  
一体となった防災・減災対策



国土交通省 東北地方整備局  
仙台河川国道事務所長 田中 誠柳

阿武隈川下流 直轄河川大規模災害関連事業



クト」を「名取川・阿武隈川下流大規模氾濫時の減災対策協議会（阿武隈川部会）」で取りまとめました。国・県・市町村等が連携し、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指し5本の柱を掲げ、①河川治水対策、②減災型都市計画、③防災体制の構築、④バックウォーター考慮型危機管理対策、⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み、についてハード・ソフトが連携した流域全体での施策による抜本的な防災・減災対策を進めています。

直轄事業では、河川等災害復旧事業により漏水箇所の堤防整備等を令和2年度までに完了し、合わせて、①河川治水対策である本川の水位を

### 1. はじめに

仙台河川国道事務所は、阿武隈川水系（下流部）、名取川水系、仙台湾南部海岸、そして宮城県内の直轄国道の整備や管理と、河川・海岸・道路事業を担当しています。

近年は自然災害が多発しており、平成23年3月の東日本大震災による地震や津波により阿武隈川及び名取川の河口部をはじめ海岸沿いでは甚大な被害が発生しました。また、令和元年10月の東日本台風による洪水では、観測史上1位を更新する記録的な豪雨となり、広範囲かつ長期間にわたる浸水被害等が生じ、地域経済へ影響を及ぼしました。

今回は、令和元年東日本台風で甚

大な被害を受けた阿武隈川水系の取り組みについて紹介させていただきます。

### 2. 阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

令和元年東日本台風の被害を踏まえ、「阿武隈川緊急治水対策プロジェ



令和元年 東日本台風 角田市内の様子



河道掘削工事 全景

低下させる対策として、河川大規模災害関連事業により約70万m<sup>3</sup>の河道掘削を令和6年度完了に向け推進しています。

### 3. 丸森地区河川防災ステーション

阿武隈川の沿川に位置する丸森町では、令和元年東日本台風で支川の堤防決壊によって拠点である役場が浸水するなど甚大な被害が発生しました。被害を受け丸森町では防災計画を見直し、迅速に災害対応できる体制の整備や、大規模災害に備え防災機能の代替できる拠点の整備など防災意識が高まっている中、直轄においても水防活動スペースや緊急資材確保の必要性から、町と河川管理

者が一体となって整備するため河川防災ステーション申請を行い、令和3年3月19日に承認・登録され、阿武隈川下流管内で初の河川防災ステーションの整備となりました。

令和3年度から整備に着手し、災害時の活用とともに平常時には賑わいづくりの利活用について丸森町が中心となって検討を行い、「次代につなぐ新たな丸森（まち）づくり」をビジョンに世代を越えて未来へとつながっていくまちづくりを推進しています。

### 4. 特定都市河川浸水被害対策法に基づく特定都市河川の指定に向けて

令和元年東日本台風により、角田

市・丸森町で阿武隈川に合流する支川尾袋川・小田川流域でも甚大な浸水被害が発生しました。この災害を契機に策定された角田市防災・減災構想等を踏まえ「流域治水」の考え方に基づく水害に強い地域づくりを早期実現するため、宮城県と仙台河川国道事務所が事務局となり「尾袋川・小田川流域水害対策準備会」を開催し、関係機関で特定都市河川指定エリアや実効性の高い対策等について検討をしています。

今後、宮城県では令和5年度内「尾袋川・小田川流域特定都市河川」の指定を目標に進めているところです。

### 5. おわりに

気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策「流域治水」へ転換し、令和3年3月に『阿武隈川水系流域治水プロジェクト』を策定(令和5年3月更新)しました。引き続き、地域に寄り添い、浸水被害の軽減、復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進めて参ります。



丸森防災ST (平時時パース)



丸森防災ST (災害時パース)